



こちらが集魚効果の期待が大きい、高層魚礁です。



魚礁のまわりには円筒魚礁も設置されます。

8月22日、久遠漁港で北海道日本海沿岸（離島を除く）で初の鋼製高層魚礁が完成しました。
この完成にあわせて、久遠小学校の児童5・6年生21名が、大成地域マリンビジョンの一環として、魚礁の製作方法や歴史、魚礁の効果や生態を学習しました。
高さ約15m、幅約13mの魚礁を目の前にすると、児童たちはその大きさに驚いていましたが、説明を聞く

様子は真剣そのもの。この日は、漁業者も見学し魚礁の効果を再認識していました。
魚礁は主にメバル類専用で、今年度1基、25年度2基、26年度2基が貝取潤沖に投入される予定です。
通常は、敷地内に入ることはできませんが、今回は施工業者である前田組さんのご厚意により見学させていただきました。

こんなことも…

町内の前浜では、国の「環境・生態系保全活動支援事業」を活用し、磯焼対策に取り組んでいます。漁業者が中心となり取り組んでいる藻場（沿岸に形成された様々な海藻・海藻の群落）の保全活動に対して、国・道・町が平成21～25年度まで支援しているものです。

瀬棚・太櫓・久遠・貝取潤の4地区の磯焼けとなっている海域に、栄養塩類の供給としてイカゴロを海中に投入しているほか、密集している海域のウニを採取して海藻の種苗を保護する取り組み、また磯焼け海域に成熟したコンブの胞子を供給する活動などを行い豊かな前浜を目指し努力しています。



イカゴロを海中に投入



ウニの密度管理作業

編集後記

▼今年ほど残暑の厳しい年はなかったのではないでしょうか：お盆が過ぎれば、9月になればと、一気に肌寒くなる覚悟で蒸し暑さに耐えていました。▼今月は農業にたずさわる皆さんのお話をうかがうことができました。私は暑い夏の寒いの、ただ感じるままをあいさつ代りに言葉にしているだけです。雨や風、自然を受け入れながらお仕事をされている皆さんのお話しには、だからこそ自信というか、信念というか、こだわりを感じました。忙しい時期だというのに押し掛けて話をうかがったにもかかわらず嫌な顔もせず対応していただき、ありがとうございました。▼四季それぞれの良さがあふれる「実りの秋」はいいですね。広報が届く頃には「寒くなってきたね」なんて言っているのでしょうか。（濱登）

